

平成22年度 学校自己評価表〔定時制〕

香川県立坂出工業高等学校

◆学校運営計画

学校運営計画		評価
学校運営方針	教職員一人ひとりが工業高校の使命を自覚し、地元企業などの協力を得ながら、高度情報化社会に対応する専門的技術を習得したスペシャリストの育成を目指す。また、学習指導要領の趣旨をふまえ、基礎的・基本的な知識技術や正しい判断力、さらに豊かな創造力を身につけた人間を育成するよう組織的に取り組む。	B

◆評価段階

A	達成できた
B	ほぼ達成できた
C	あまり達成できなかった
D	達成できなかった

◆22年度重点目標および具体的目標

22年度重点目標	具体的目標
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し学習や少人数クラスの特性を活かした個別指導をとおして、基礎学力の定着と個々に対応した学力の向上を図るとともに、興味・関心の湧く授業の工夫、改善に努める。 ・ものづくり教育を充実させ、各種ロボット競技大会や校外行事に積極的に参加するなど、工業の実践力の育成に努める。 ・基礎的・基本的な工業技術を修得させ、積極的に資格・検定を受験させるとともに、課外指導を充実させ合格率を向上させる。
2 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職内定率100%を目指すため、学年に応じた系統的な職業指導を行い、望ましい職業観・勤労観を育成する。 ・在学中のアルバイト等を推奨し、就職時に必要な生活習慣や、社会人としてのマナーを意識させる。
3 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導や部活動を充実させることにより、基本的倫理観、協調性、自律心、モラルの向上・育成に努める。 ・家庭や専門機関との連携を密にし、教育相談や人権教育を充実させることにより、個性や人権を尊重し他人を思いやる生徒を育てる。
4 信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくりを目指し、学校評価の結果に基づき、組織として適切かつ早期の対応に努めるとともに、学校情報の提供を十分に行う。 ・ものづくりの技術を活かして地域に貢献し、イベントに参加するなど、地域社会との連携や相互理解に努める。 ・危機管理を充実させ、校内での事故や交通事故の未然防止に努めるとともに、個人情報の管理を徹底する。

◆22年度の成果と次年度の課題

22年度重点目標	成果(・)と課題(*)
1 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力「読む」の向上を目指し、図書室を利用して読書指導および本の紹介や調べ学習をさせ、読書への興味関心を抱く生徒が増えた。 ・ものづくり教育の取り組みとしてマイコンカーを製作し、マイコンカーラリー四国大会のベーシッククラスに電気科2年生3名が出場し活躍した。 ・課外、補習等を充実させ、第一種電気工事士、第二種電気工事士、危険物取扱者乙種、ガス溶接技能講習、ボイラー取扱技能講習、パソコン利用技術検定等の9種類の資格・検定に合格した。 <p>*資格・検定の合格は学習意欲の向上につながるが、生徒達はアルバイトとの両立を行っているため、始業前の補習や長期にわたる課外や補講等の指導に限界があり、その対応が課題である。</p>
2 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職状況が厳しい中、4年生6名全員の就職が内定した。(県下の定時制における就職率は平成23年1月末現在46.2%) ・「さぬき若者サポートステーション」の協力を得て、就労支援プログラム(平成22年11月より各学年月1回実施)を開課程となるまで続けていくことが出来るようになった。 ・積極的な在学中のアルバイト等の推奨により全ての生徒がなんらかの就労を経験し、勤労観の育成につながっている。 <p>*次年度も就職状況は厳しいと予測されるため、企業訪問や企業開拓、就職内定につながる資格・検定の取得を継続して推奨する必要がある。</p>
3 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。また、人権教育、交通教育、情報教育、防災教育等におけるVTR視聴等により、人権意識や倫理観、道徳心を養うことが出来た。 ・定通総体に向けて部活動は昨年より早い時期から開始でき、全日制の職員、生徒の協力を得て大変意義ある練習ができた。全国大会への出場は果たせなかったが生徒達は大変喜んでいて。 ・スクールカウンセラーとの連携を図り専門機関の支援を受けるなど、教育相談活動の充実を図ることが出来た。また、いじめ等の調査においても、ほとんど問題は無かった。 <p>*特別支援が必要と考えられる生徒6名に対して、一人ひとりの特性に応じた教育活動、支援活動にさらに取り組む必要がある。</p>
4 信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制Webページ、定時制便り「道標」(6月、7月、11月、12月、3月の計5回の発刊)等を通して、家庭に教育活動の一環を随時発信できた。 ・坂出「光輝里フェスティバル」に生徒達が製作したイルミネーションを展示したり、西部保育所に「ばいきんまん」等のオブジェ2体を寄贈するなどの地域貢献ができた。 ・情報管理および書類整理の徹底を通して、個人情報の管理の意識の向上に努めた。 <p>*生徒減少に伴い行事や特別活動の中には縮小せざる得ないものも生じてくると思われるが、結果として信頼される学校であるための質の低下につながらないように取り組んで行く必要がある。</p>

平成22年度 学校自己評価表 (定時制)

◆ 自己評価項目一覧

大項目における () 内の評価は昨年度のものである。

評価項目	分掌	評価指標 (重点目標)	評価基準 (具体的方策)	評価			次年度にむけての改善点や取り組み または新規目標
				具体的結果・根拠	小項目	大項目	
教育課程 学習指導	教務	授業や行事等のあり方について検討し改善を行う。	生徒による授業評価アンケートや保護者アンケートなどの内容の改善を行い、その結果を職員で検討し授業や学校行事を改善する。	職員集会等で行事等の実施について討議し、全員一致のもと、全ての行事の実施が出来ている。	B	B (B)	閉課程にむけての準備を進める。 少人数に対応した行事の検討を進める。 生徒一人ひとりの特性に合った支援方法を考える。 授業評価アンケートの結果等を検討し、授業改善等に努める。
	人権・同和教育	人権学習への生徒の主体的な取り組みを促す。	生徒の積極的な取り組みを引き出せる優れた視聴覚教材を選定し、LHRの構成に工夫する。	12月、3月の特別指導期間にVTR視聴を交え、人権学習を実施した。人権に関する問題等は一切生じていない。	B		LHR、講話、視聴覚教材の視聴等を通して、「人権とは憲法にかかれた自由と権利を具現化すること」を意識させる。
	機械科 電気科	積極的に資格取得にチャレンジさせ、合格へと導く。	計算技術検定・パソコン利用技術検定の全員合格をめざすとともに、電気工事士・危険物取扱者試験などの課外を行い、合格率を向上させる。	第一種および第二種電気工事士試験で各1名ずつ合格、危険物取扱者乙1、乙2、乙5、乙6で各1名ずつ合格、パソコン利用技術検定3級で1名合格した。ガス溶接技能講習、ボイラー取扱技能講習で各1名ずつ修了した。	B		積極的に様々な資格取得にチャレンジさせ、自学自習の習慣を養い、生涯学習のライフステージへの足がかりとする。 さらに目指す資格に合格することで知識と自信を深め、進路実現に向けて自らの付加価値を高めることをめざすとともに、合格率のアップも図る。
	図書	読書への興味・関心を深めさせる。	LHR、国語の授業時間、特別指導期間にて図書室で読書をさせ、読書の習慣をつけさせる。	各学期末に全員を対象とした読書指導を行うとともに、定期的な指導を継続している。習慣化までには至っていないが、読む態度は全員が身につけてきたように思う。	B		LHRや授業時間、特別指導期間などに、図書室で読書をさせ、読む力および書く力の増進に努める。 図書館司書と連携し、図書室利用の促進を図る。
生徒指導	生徒指導	基本的な生活習慣の確立をめざす。	家庭や職場と連携を密にして指導し、出席率90%以上、学校行事出席率90%以上をめざす。	出席率は約95%で、目標を達成した。 保護者懇談、家庭への連絡、家庭訪問等必要に応じて時期を逸せず行っている。	A	A	家庭訪問を定期的に行い、家庭との連携を図る。 基本的な生活習慣の確立 (特に礼儀作法) を目指す。 出席率 (行事も含む) 95%以上を目指す。
		情報倫理観を養い、防犯意識を高める。	携帯電話・インターネットに関わる犯罪事例を紹介し、正しい情報倫理観や情報収集能力を高めるため、講演会やビデオ学習などを定期的に行う。	各学期末の特別指導期間において、坂出署より講師を招き、講演会及びビデオ学習を実施した。生徒達の実態にあった内容であり、興味深く視聴し、意識も高まった。	B	(B)	交通安全意識の確立を図る。 インターネットに関わる被害者、加害者にならないための指導の徹底を図る。 道徳教育の推進に努める。
	教育相談	スクールカウンセラーとの連携を図る。	スクールカウンセラーに登校時や専用教室での生徒への声かけをお願いするとともに、相談カードを作成し活用する。	5月までに生徒全員とのカウンセリングを行ってもらうとともに、精神的に不安定な生徒の継続的指導を行ってもらった。	A		年度当初に全員対象にスクールカウンセラーによるカウンセリングを実施する。 生徒が気軽に相談できる環境を継続して整備する。
	さまざまな困難を抱えた生徒をより理解する。	スクールカウンセラーに事例などを紹介してもらい研修会を開く。	スクールカウンセラーによる研修会を2学期末に実施した。	A		スクールカウンセラーと教員との情報交換を密にして、さまざまな困難を抱えた生徒の支援に努める。	

評価項目	分掌	評価指標（重点目標）	評価基準（具体的方策）	評価			次年度にむけての改善点や取り組み または新規目標
				具体的結果・根拠	小項目	大項目	
特別活動	特別活動	生徒会役員を中心とした生徒会活動を行う。	役員会を定期的に開催し、生徒会便りの発行をする。また、生徒へのアンケートを実施し、一人ひとりが生徒会の一員であることの自覚を促す。	定時制最後となる坂工展は生徒、教員の一致団結協力の下で製作、展示した。多くの来場者にきていただき、大変意義深いものとなった。定時制の歴史、卒業生の思いを強く実感させられた。	A	A (B)	一人ひとりが生徒会の一員であることの自覚を促し、定期的に生徒会役員会を開催する。 充実した学校生活を送れるように、積極的に生徒との意見交換に努める。
		部活動の活性化により、定通総体での成績向上と全国大会出場をめざす。	体育の授業との連携や、4月から教員の積極的な声かけにより早期から活動する環境づくりを行う。	全日制の生徒、先生方の応援を受け、例年以上に力が入った練習が出来た。全国大会への出場は果たせなかったが、悔いの残らぬ大会となった。	A		体育の授業との連携や、4月から教員の積極的な声かけにより早期から活動する環境づくりを継続し、一人でも多くの生徒が全国大会へ出場できるように指導する。
進路指導	進路指導	進路情報の積極的な提供を行い、4年生全員の進路先を決定する。	4年生を中心に工場見学等の機会や進路相談、面接指導を計画的に行う。	4年生6名全員の正社員として就職が内定した。履歴書の書き方や面接指導は職員全員で分担し、ある程度は出来た。もう少し早期からの実施を考える必要性を感じている。	A	A (B)	積極的に企業開拓や会社訪問を行い、早期からの進路情報の提供に努める。 4年生全員の進路内定がもらえるように努める。 面接指導を徹底して行う。
		進路選択の能力・態度の育成を行う。	全校集会やホームルーム等で積極的な情報の提供を継続するとともにアルバイトを推奨する。	さぬき若者サポートステーションと連携し「就労支援プロジェクト」を11月より開始し、進路意識の高揚と就労支援体制の確立を図った。	A		さぬき若者サポートステーションとの連携による「就労支援プロジェクト」を継続させ、早期からの進路選択の能力・態度の育成に努める。 就労経験を継続して積むように指導する。
安全管理	安全管理	一人ひとりの防災意識を高める。	火災の場合のみならず、地震などの災害への対処も研究し、避難訓練に採り入れる。	坂出消防署の協力を得て、9月および12月に防災講話、防災VHR視聴、避難訓練、消火訓練等を行い、危機意識の高揚に努めた。	A	B (B)	坂出消防署との連携を図り、防災意識の向上に努める。 9月、12月に防災に関する講話、VTR視聴を行う。
		安全点検の実施を充実させる。	危険箇所の撤去・改善を常に行い、さまざまな災害発生を想定した避難経路の点検を進める。	日々の巡回で危険箇所の早期発見に努め、危険箇所については事務へ連絡したり、生徒と一緒に改修したりしている。避難訓練を12月に実施した。	B		実際に災害が発生した場合を想定して、避難経路等の点検を継続して行う。 危険箇所の改善、改修を行う。
保健管理	保健管理	健康について、意識向上を図る。	全校集会・講演会・LHRなどの機会にビデオ教材や保健だよりを用いて、興味・関心を喚起する。	全校集会時に、食中毒、インフルエンザへの注意喚起を行うとともに、その具体的対策について説明した。また、2月には食育指導を実施した。	B	B (B)	食事や生活習慣に関して、LHR等の機会を用いて、興味・関心を喚起する。 感染症への対策、指導を継続して行う。
組織運営	組織運営	各種文書や個人情報の管理を徹底する。	職員室内の各種保存文書や書籍等の整理を定期的に行い、個人情報の管理を徹底する。	毎週水曜日を「整理の日」としている。 個人情報の管理については、全ての教員が意識を持って取り組んでいる。	A A	A (A)	各種保存文書や書籍等を更に徹底して整理する。 個人情報の漏洩等がおきないように研修、啓発を繰り返し行う。
研修	研修	研修の機会を増やし資質向上をめざす。	すべての教員が1回以上研究会や研修会へ参加できるように啓発する。	全ての教員が少なくとも3回は研究会や研修会に参加している。全職員が意欲的に取り組んでいる。	A	A (A)	研究会や研修会へ積極的に参加する。 集会等における報告や資料回覧により情報を共有する。
保護者地域住民等との連携	教務	開かれた学校づくりをめざす。	定時制 Web ページ、定時制だよりの発行を通して保護者等に教育活動内容をより理解してもらう。	定時制だより「道標」を6月、7月、11月、12月、3月の5回発行した。 Web ページは適宜更新している。	A	A (A)	定時制 Web ページや定時制だよりを適宜更新するとともに、生徒のコメントなども取り入れてさらに充実したものとする。
	生徒会	ものづくり技術を身につけ、地域行事に参加する。	坂出「光輝里フェスティバル」にイルミネーション作品を出展する。	坂出「光輝里フェスティバル」にイルミネーション作品を11月17日から1月11日まで展示した。坂出西部保育所に坂工展で製作した「ばいきんまん、ドキンちゃん」のオブジェを寄贈した。	A		生徒会で少人数でも出来る地域貢献・ボランティア活動を考えて実施する。 (来年度は生徒数の関係で、光輝里フェスティバルへの出展は難しい。)
施設設備	施設設備	教育環境・生活環境を整備する。	職員、生徒から要望品の聞き取りを行い、購入物品を選定し、よりよい環境の整備に努める。	特に生徒からの要望もなく、生徒の教育環境、生活環境は最適とは言えないと思うが、十分である。 必要に応じ物品購入等を精査したい。	B	B (B)	生徒数はさらに少なくなるが、教育活動に必要な物品は要求し、教育環境の維持に努める。